

# 1 のぞいてみよう「ひと・まち・暮らし」

## 1 主 題 様々な人権課題

## 2 主題・教材について

人権とは、人が生まれながらに有している必要不可欠な様々な権利である。しかし、私たちが日常生活の中で「人権」について意識することは少なく、無自覚なまま他者の人権を侵害していることもある。自分たちの日常を「人権」の視点で改めてじっくり見つめると、今まで見過ごしてきたことの中にも、新しい気づきがあったりする。また、その気づきを交流する中で、互いの人権感覚も磨かれていく。さらには、そうした視点で自分が暮らす地域社会をとらえ直す活動へと発展させたい。

この教材は、イラストマップの中に様々な人権課題が描かれている。このマップをじっくりと見ることを通して、偏見や差別を見極める技能を身に付けさせたい。また、そのような人権課題に気づいたとき、その解決に向け、積極的に行動しようとする態度を育みたい。

- ## 3 ねらい
- ・ 日常に潜む人権課題を見極める技能を身に付ける。
  - ・ 人権尊重のまちづくり、社会づくりに向け、行動しようとする態度を身に付ける。

## 4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	日常生活における「人権」についてふり返ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 普段、生活している中で、どのような場面で人権を意識するかについて意見を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自由に意見を出せる雰囲気大切に作る。</li> </ul>	
展	イラストマップを見て、気づいたことを話し合おう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各自イラストマップを見て、人権に関することで「気になるところ」をワークシートに書き出す。</li> <li>・ グループになって、気になるところとその理由について意見交換する。</li> <li>・ 各グループで出された意見を発表し、全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人権が守られていない」と感じるところだけでなく、「人権が尊重されている」と感じることに気づくことも大切であることを伝える。</li> <li>・ どのような意見も否定しないことを確認する。</li> <li>・ 他者の意見を聞いて新たな気づきがあったことについて話し合いをもち、考えを深めさせたい。</li> </ul> ※全体での共有を図る際には、DVD所収のイラストマップを活用することが有効である。	ワークシート  DVD
開	出会いが気づきにつながることを知ろう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の気づかなかったことに気づいた人は、なぜそのことに気づくことができたのかについて意見を出し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろな出会いが人権感覚を磨くことにつながっているということに気づかせたい。</li> </ul>	
	誰もが暮らしやすい社会づくりについて考えよう。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どのような社会が誰にとっても暮らしやすい社会なのかを考え、グループで話し合う。</li> <li>・ 誰もが暮らしやすい社会づくりに向けて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰もが暮らしやすい社会とは、公共施設やサービスが充実しているだけでなく、そこに住む人が大切にされる、差別や偏見のない社会であることに気づかせたい。</li> </ul>	

展 開	<p>何が大切かを話し合い、ワークシートに箇条書きでまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの意見を発表し、全体で共有する。</li> </ul>		ワークシート
	<p>(発展) 自分たちの地域社会について話し合おう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が住むまちや学校の周辺でもイラストマップのようなことはないかを考え、グループで意見を交換する。</li> <li>グループごとに気づいた様々な課題のうち一つを取り上げ、その解決の方策を以下のように分けて画用紙にまとめる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>自分自身でできること                 <ol style="list-style-type: none"> <li>今すぐに行えること</li> <li>時間をかけて取り組むべきこと</li> </ol> </li> <li>地域や学校で取り組めること                 <ol style="list-style-type: none"> <li>今すぐに行えること</li> <li>時間をかけて取り組むべきこと</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>各自が付箋に記入したものを画用紙に貼っていき、それをもとにグループで意見を述べ合う。</li> <li>各グループの意見を発表し、全体で共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分自身や身近な人の中に、同じような体験をした人はいないかなど具体的な事例を挙げながら考えさせる。</li> <li>グループごとに担当する人権課題を決めて話し合いを進めてもよい。 (例)             <ol style="list-style-type: none"> <li>1班一障害者(点字ブロックやエレベーターの設置状況について)</li> <li>2班一子ども(児童虐待) 等</li> </ol> </li> <li>課題解決に向けては、1人の力では難しいことでも、協力すればできる場合もあることを伝える。</li> <li>「地域や学校で」と言うとき、自分自身もその中の一員であることを押さえたい。</li> </ul>	画用紙(各グループに1枚) 付箋
ま と め	<p>学習をふり返ろう。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習をふり返り、感じたこと、考えたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権尊重のまちづくり、社会づくりについての主体者は私たち一人一人であることに気づかせたい。</li> </ul>	

5 発展 各グループで取り上げた人権課題について、自分たちが住むまちや、学校がある地域での取組について聞き取り調査を行い、グループごとに発表することも考えられる。

《参考》

◆画用紙の使い方(例)

( ) 班		
課題:		
	①今すぐに行えること	②時間をかけて取り組むべきこと
1 自分自身でできること		
2 地域や学校で取り組めること		

《参考》

◆イラストマップの中の気づき（例）

(A-2)

- ・建物に「毎月11日は人権を確かめあう日」の横断幕が掲げられています。「毎月11日は『人権を確かめあう日』」の取組は、1989（平成元）年に奈良県市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会（啓発連協）が提唱して始まった活動です。毎月11日に今一度人権について考え行動し、人権意識を高め合おうとするものです。「同和对策審議会答申（同対審答申）」が出されたのが1965（昭和40）年8月11日であったことから、この日を記念して、「人権を確かめあう日」とされました。
- ・建物の窓から見えるカウンター（机）にレインボーフラッグが置かれています。レインボーフラッグは、虹のような赤から紫までのグラデーションを6色で表し、性の多様性、共生を象徴するものとして世界中で用いられています。これらの虹を表すグッズを示すことは、性的マイノリティを理解し、認め、互いに支え合いながら共に生きていこうとする態度の表明であるとされています。
- ・自転車置き場の自転車が駐輪スペースからはみ出して、点字ブロックをふさいでいます。白杖を持った人が歩いてきましたが、このままではぶつかってしまいます。点字ブロックは、視覚障害者が靴底や白杖で触れることによって前方の危険の可能性や歩行方向を認知するためのものであり、視覚障害者にとっては外出する際のよりどころです。私たち一人一人が当り前のルールを守ることで、視覚障害者だけでなく、だれもが安心して外出できるまちづくりを進めたいものです。

(A-4)

- ・街頭で大きな声を上げてアピールしている人たちの周りに人が集まってきました。近年、特定の民族や国籍の人々を排斥する趣旨の言動が公然となされ、そのような行為は「ヘイトスピーチ」と呼ばれています。ヘイトスピーチは、人々に恐怖感や不安感、嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせたりすることにもつながりかねない大きな社会問題となっています。

(B-1)

- ・コンビニエンスストアの障害者等用の駐車スペースに、障害のないと思われる人が駐車しています。そのため、障害のある人が安心して駐車できない状況が発生します。また、外見からはわかりづらい障害のある人等にとっては障害者等用の駐車スペースが利用しにくい状況もあるようです。車の乗降に広いスペースが必要な車いす使用者や他の障害者、高齢者等が利用しやすい駐車場の整備や周りの人の理解が求められています。なお、身体に障害のあることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に、下のような「身体障害者標識（身体障害者マーク）」を表示してあることがあります。



身体障害者標識

（身体障害者マーク）

身体に障害のあることを理由に免許に条件を付されている方が運転する車に表示するマークです。マークの表示については、努力義務となっています。

(B-2)

- ・マタニティーマークを付けた女性がバス内でつらそうに立っていますが、座席でおしゃべりに夢中な高校生は気づいていません。そうかと思うと、高齢者に声をかけて席を譲る小学生もいます。マタニティーマークは、妊産婦が交通機関等を利用する際に身に付け、周囲が妊産婦への配慮を示しやすくするものです。こういったマークや優先座席などに関係なく、互いを尊重した行動がとれる人を目指したいものです。



マタニティーマーク

(B-4)

- ・高校生のカップルが路上でスマートフォンを巡って言い争っているようです。お互いに好意があっても、相手を尊重する態度に欠け、過剰な嫉妬心や独占欲を相手にぶつけてしまうと対等な人間関係が損なわれてしまい、そのことがデートDVやDVといった人権侵害にもなりかねません。

(B-5)

- この学校では、地域の方が子どもの見守りを兼ねてあいさつ運動を行っています。子どもたちの気持ちのよい「おはよう」の声で一日がさわやかにスタートします。このような活動は、子どもを犯罪被害や交通事故から守るだけでなく、地域の活性化や高齢者の生きがいつくりにもつながっているようです。
- 校門をくぐっていく子どもたちに注目すると、色とりどりのランドセルを背負っています。「男だから黒」、「女だから赤」といったことではなく、一人一人が性別にとらわれず、自分らしく生きることを追求できる社会であってほしいものです。

(C-1)

- 高校生が歩きながらスマートフォンを覗き込んでいますが、その顔は青ざめています。ネット上のトラブルでしょうか。情報通信技術の発達により、私たちの暮らしはより豊かなものへと変化しました。その一方で、ネット上のいじめや他人への誹謗中傷、個人情報流出など人権に関わる新たな問題が発生しています。ネットとのつきあい方や今の暮らしぶりを見つめ直す機会をもちたいものです。

(C-2)

- この会社では、女性が職場の同僚にお茶を出すことが日課となっているようです。性別によって役割を決めるのではなく、自分の力を自分らしく発揮して働ける社会づくりを考えましょう。

(C-4)

- 公園のベンチで高齢者がさみしそうにしています。高齢者の中には、ご近所や友人等とのかかわりが減ってしまい、一人ぼっちで過ごす人もいます。中には、家に閉じこもってばかりいる人もいます。そうした高齢者を孤立させないまちづくりが必要です。
- 多くの公共用トイレは、男性用、女性用の2つに分かれています。それに対し、入りづらいと感じる人(性的マイノリティ等)がいるということを考えてみたことがありますか。最近では、多目的(多機能)トイレが設置されることも増え、障害のある人や高齢者、乳幼児を連れた人など、誰もが使いやすいよう様々な工夫がなされています。  
また、トイレの入り口の表示が、たいていの場合、男性用が青や黒、女性用が赤となっていて、そのことが性別に対するイメージを固定的なものにしてはいないかといったことも考えてみましょう。

(C-5)

- マンションの窓から、さみしそうに外を見ている子どもの姿が見えます。何かあったのでしょうか。あなたの周りでもこういうことはありませんか。もしかしたらそれは児童虐待のサインかもしれません。「虐待かも」と思ったら、ためらわずに、周りの大人や専門の相談窓口などに連絡しましょう。

(D-4)

- 就職の採用に関わって、本人の能力や仕事に対する意欲・姿勢などを確認するために面接が行われます。従って、イラストのように、家族の職業など、本人の資質や能力に関係のない質問をするということはありません。誰もが、意欲や努力が認められ、この仕事に就いてよかったと思えるような社会を築きたいものです。

(D-5)

- マンションの下で、外国人らしき人が、一方的に責められているようです。どうやらこの人はゴミ出しのルールがわからなくて、ご近所の方とトラブルになったようです。私たちは、いつも自分がやっていることは他の人もできる、誰でもわかっていると思ってしまいがちです。思い込みにとらわれずに、お互いが理解しあえる方法を探っていきましょう。まずは、ご近所で困っている人を見かけたら積極的に声をかけ、お互いにじっくり話し合うことから始めましょう。

## のぞいてみよう「ひと・まち・くらし」

◇気づいたことを話し合いましょう。

場 所	気 にな る と ころ
(例) B-1	(例) 障害者等用の駐車スペースに、障害のない人が駐車している。

◇だれもが暮らしやすい社会づくりに向けて何が大切か、考えましょう。

名前 \_\_\_\_\_